

羽区
新地

ふくしの和

題字 長澤 茂

第19号

発行 横浜市港北区
新羽地区社会福祉協議会
会長 中山 宏
編集人 長谷川武明
港北区新羽町2200
☎(541)5578



「新年を迎えて」

港北区長 持田 一皇

新羽地区社協の皆様、あけましておめでとうございます。

日ごろから地域での福祉活動にご尽力をいただき、ありがとうございます。

特に昨年は新羽地区「ささえあい連絡会」と地区社協の皆様が、ボランティアグループ「竹の子っぱ」を立ち上げ、地域福祉の輪を

さらに広げていただきました。

このようなことを含めて、平成十五年度横浜市社会福祉協議会より会長感謝賞を授与されました。

誠にありがとうございます。

これも一重に日ごろの皆様の熱意と努力のたまものと思います。

少子・高齢化社会の進展に伴い一人暮らし高齢者や子育てに関する

「新年を迎えて」

新羽地区社会福祉協議会

会長 中山 宏

明けましておめでとうございます。皆様には、心新たに新年を迎えることと存じます。

日ごろより新羽地区社会福祉協議会へのご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげ様で活動の一つとして、平成十四年発足しましたボランティア「竹の子っぱ」の活動も、多くの方々のお力により軌道に乗ってまいりました。しかし、まだ「竹の子にっ

問題がますます大きくなってきております。

地域のきめ細かいニーズには行政だけでは到底対応できず、地域福祉の推進役である新羽地区社協の皆様と我々行政が一体となって取り組んでいきたいと考えております。

新羽地区社協のご発展と皆様のご多幸を祈念しております。

新田小学校5年 青山 明日香
「やっちゃだめ」
その一言で 明るい社会

新田小学校5年 黒田 美希
「ありがたう」
大事な一言 わすれずに

新羽小学校6年 米山 静香

新羽小学校6年 刈込 和沙
だれにでも 明るい笑顔で あいさつを

新羽小学校6年 刈込 和沙
わすれずに
社会を明るくする運動入選作

われておりますので、地域の人たちがお互いに支えあい、頼りあえる明るい町づくりが大切なのではないでしょうか。この目標に向かって少しでも近づくよう努力してまいりますので皆様のご協力をお願いいたします。

最後に皆様のご健勝を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

就任ご挨拶

新羽連合町内会

会長 塩山 良三



平成十五年四月、新羽連合町内会長に就任いたしました。

た。前会長同様ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。高齢化は急速に進み、今や世界一の長寿国となり、一方青少年犯罪の若年化や子どもに対する虐待の増加等多くの問題を抱え、社協の使命は益々重要となってまいります。

新羽地区社協におかれましては「地域支えあい連絡会」が設立された後、新たにボランティア「竹の子っぱ」も誕生し、軌道に乗っております。

一方人口の増加により、区内で幼児の占める割合は一番高く、核家族化による子育ての不安も問題化し「子育て支援」も始まっております。その顕著な活動が評価され昨年十一月、市社協より優良地区社協表彰を受賞されました。

新羽地区社協の活動には心から敬意を表します。社協の構成の多くは各町会から推薦された方々であり、社協と連合町内会とは共に協力活動してまいりたいと考えております。

最後に新羽地区社協の益々のご発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

新羽地区社会福祉協議会

申		賀		新		年		申	
相談役	中山 宏	理事	事務局長	監事	委員	副委員長	広報委員	委員	副委員長
柴田 周	秋元 千代	土岐 章臣	中村 徳次	長谷川 武明	中山 幹雄	石原 三喜雄	岩崎 和雄	齊藤 一雄	西山 一雄
三浦 敏郎	小山 米子	山口 久仁子	小野 照男	難波 侯子	鈴木 正敏	大谷 佐一	江澤 孝治	永井 喜男	萩原 正夫
望月 俊一	松村 清見	中山 利光	長谷川 武明	小山 米子	土岐 章臣	望月 要	永井 喜男	萩原 正夫	萩生田 アイ子
川向 隆次	南 福一	宮下 俊博	市川 義行	本木 幹雄					

ボランティア

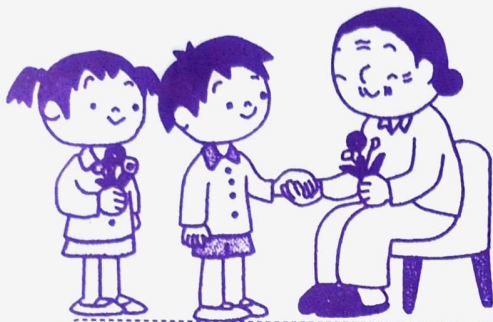
「竹の子にっばの一年」

早いもので、新羽地区支えあい連絡会から生まれたボランティア「竹の子にっば」の活動も平成十四年十二月の初活動以来、一年が経ちました。

よちよち歩きで始まったボランティア活動も、新羽町の様々な皆様のご協力を得て、元気に活動を続けています。

最近では、ボランティアの依頼件数も除々に増え、その内容も高齢者の話相手から障害児の通学援助まで多岐にわたる活動となりました。特に病院への、薬取りや庭の草むしり、粗大ごみ出し、ガラス拭きなど介護保険等の公的サービスでは手の届きにくい内容の依頼が多くなってきました。

ボランティアのメンバーも研修



竹の子にっば事務局 電話：090-6797-9014
受付時間：土日祝祭日を除く13～15時

あなたのまちの
行政相談委員は

045-531-3972 小山 米子です。

このような場合ご相談を…



国の仕事などについて

- 苦情がある、困っていることがある
- こうしてほしい
- 苦情を申し出たが、説明や措置などに納得がいけない
- 苦情や困っていることなどについて、どこに相談してよいか分からない
- 手続・サービスなどの関係で制度や仕組みが分からない

などのことがありましたら、ご相談ください。

たとえば

- 年金、医療保険、老人保健・福祉
- 交通安全 ● 雇用保険、労災保険 ● 登記事務
- 道路 ● 生活衛生 ● 郵便・貯金・簡易保険
- 消費者保護 ● 窓口のサービス



を重ねて、様々な活動依頼に対して安全に遂行できる様に準備をしています。

新羽町に先祖代々住んでいる方、最近になって新羽町に住み始めた方、お年寄りから子どもまで誰もが安心して暮らせる町であり続けることが私達の願いであります。そのために私達の活動が少しでも皆様のお役に立つことが出来るように願っています。

ご存じでしょうか？

最近の新羽町は港北区内のどの地区よりも人口に対する子どもの割合が多いそうです。

これは、新築マンションの建設が多くあり、そこに新しく住み始めた多くの若い世代の家族が、新

町民になっていることを表しています。若年人口が減り、高齢化率が上がり続ける日本の他地区に比べてすばらしいことだと思いませんか。先日の支えあい連絡会で町会長さんのお一人がおっしゃっていました。「新羽町にたとえ短期間でも居住した人たちが、他の町で暮らし始めた時に、新羽町に住んでいた時を幸せな記憶として残る町にしたい・・・」と。

ボランティア「竹の子にっば」は、これからも古い伝統と若い世代が融合する理想の町になるように、町民一人一人が、人に対して思いやりを持って生活できる温かい町づくりのために、活動を続けていきますので、皆様よろしくお願いたします。

なお、ボランティアに興味のある方、ちょっとしたぞいてみようかなと思われる方は、「竹の子にっば」の事務局にご連絡ください。仕事を依頼の方も相談だけでもかまいませんので、お気軽にお電話をいただければ嬉しいです。

(中丸恵子・他記)

新羽中央町内会

会長 石原 三喜雄

平成十五年四月に就任して、はや九ヶ月が過ぎました。

本年度は町会の会館建設や法人化も含め新たな転機を迎え、町会長としてそれに伴う多くの課題と共にスタートしました。任期中は出来る限り皆様方のために努力したいと思っております。至らぬ点多々出るとは思いますが、他の役員、会員及び先輩諸氏のお力を借り、進めて参りたいと考えております。

新羽町がますます良い街になることを祈念し、諸問題に対しましては皆様のご協力をお願いし、微力ではありますが地域社会のために頑張っております。思いご挨拶とさせていただきます。

北新羽町内会

会長 西山 一雄

この度平成十五年四月より前会長金子米太郎氏の後任として北新羽町内会長に就任いたしました。

金子氏は、町内会長として連合町内会長として多年に渡り新羽町発展のために一途に精進され、多大なる実績をあげられました。本当にご苦勞様でした。

体調が思わしくないとこの事で、急に経験の少ない私が会長という重責を引き受け、微力ながらも全力を注いで任期を務めたいと思います。

関係役員皆様方の御指導と御支援をよろしく願いたします。

クリオ新横浜北自治会

会長 三浦 敏郎

平成十五年四月よりクリオ新横浜北自治会の会長に就任いたしました。甚だ微力ではございますが、皆様方のあたたいご指導とご協力をいただき、責務をまっとうしたいと思っております。

当自治会は、約三百の世帯を有し、一年交代で役員を選出しております。不慣れで至らない点もあるかと思いますが、新羽地区の親交や助け合いに少しでもご協力できればと思っております。

新羽町内会

会長 斉藤 實

前会長廣田繁穂氏の急逝により九月の町内会定例役員会、理事会のご推挙、承認を経て会長に就任しました。すでに当期は半年を経過しており、予算も確定しておりますので、前会長の路線を継承し肅々と諸事業を消化してまいります。

皆様各位にご指導ご鞭撻を賜り一日も早く仲間入りをいたしたいと思っております。当面三月末日まで全力投球し、来期は町内会の組織、体制も協議し町内会の皆様のご支持とご理解をいただければ続投もあり得るかと思っておりますので、前会長同様ご交宣を賜ります様お願い申し上げます。



たてわり活動

新羽小学校三年 小澤 菜由

わたしの学校には、たてわり活動があります。たてわり活動では全校遠足に行ったり、さつまいもの苗を植えたり、ふれあい給食でいっしょにご飯を食べたりします。たてわり活動は、ふだんあまりしゃべらない人と交流できるのがいいです。

今年の全校遠足は、地下鉄に乗ってきね公園に行きました。グループの人と楽しく遊んで、いっしょにおべんとうを食べました。

春に、グループの人とさつまいもの苗を植えました。それをこの間とり入れて楽しかったです。

ふれあい給食では、クラスのグループの人と給食を食べました。

たてわり活動のリーダーは、一・二年のせわをしたり、注意をしたり、時計を見たりするのでたいへんだと思います。わたしが、六年生になってリーダーになったらみんなのためにがんばりたいです。



全校遠足・全校いもほり

新羽小学校四年 豊田 諒

今年の全校遠足で、きし根公園に行きました。

ドロケイでケイサツになったときは、見はりをしていました。ドロボウになったときは、つかまつた友達をたすけました。

昼はビーチボールで遊んでいたら、どろだらけになってしまいました。

クイズでは「い」のつく歌を歌ってくれと言われましたが、一回でOKされました。

一年から六年までのたてわりグループで遊んで、とても楽しかったです。家に帰ったらすぐに寝てしまいました。

さつまいもでは、草むしりで軍手を忘れたので手がいたくなりました。でも最後に、さつまいも堀りをして、やきいもにして食べることができました。来年もたてわり活動の全校遠足やいも掘りが楽しみです。



さいほうを教えてもらって

新羽小学校五年 酒巻 健吾

六月二十日にさいほうを教えてくれる地域のおばあさんが学校に来て下さいました。

おばあさんは、すごく速く並みぬいをしていました。

ぼうがなかなか針に糸を通せないでいると、糸を糸切りばさみでななめに切ればいいと教えてくれました。その通りにやると、針の穴に糸が入りやすくなりました。

おばあさんは、さいほうについてよく知っているなと思いました。

おばあさんは、並みぬいをかんたんにできるやり方も教えてくれました。そして、その通りにやると本当に楽に並みぬいできました。

今でもおばあさんの言った通りにしています。

ばくは、そのおばあさんにとても感謝しています。

ありがとうございました。

新羽中学校三年 新城 三奈美
見つけたそう
自らできる 思いやり

新羽中学校三年 茂田 悠
「ダメだよ」と言える心が
勇気のしるし

社会を明るくする運動入選作



ミニキャンプに参加して

新羽中学校三年 大石 幸奈

七月二十六・二十七日に毎年恒例となっているミニキャンプが新羽小・中で行われました。昨年よりも多い二百四十名余りの参加者数でした。私たち中学生ボランティアがやったことは、主に移動するときの人数確認でした。人数確認といっても一人足りないだけでも騒ぎになるのでとても気を遣いました。夜になるとメインの肝試しの準備をしました。二日間という短い間でしたが、普段はあまりやらないことばかりを経験しました。低学年は、一つのことをやらせるのも大変ですが、高学年の子どもたちが手助けしてくれたこともありました。この体験が小学生たちにとって夏休みの一つの思い出になるように手助けが出来たことを嬉しく思います。それに、地域の方々の協力があったことなのだと思います。

「ボランティア体験から」

新羽中学校教諭 勝田 真

八月十八日・十九日の両日、横浜市教育委員会の「ボランティア体験研修」(初任者対象)として地域作業所「ほっと・館 宇宙(そら)」で指導いただきました。過去、盲学校に勤務していた関係で、他の学校へ移った後も、年に三・四回お手伝いをさせていたなど等、ボランティア暦は浅いのですが、学生時代からボランティア活動に関心を寄せておりました。

ので、待ちわびていた研修でした。さて、私の一日の活動は、メンバーの方のお迎え(二十四時間テレビから寄付されたリフト付きバス)で始まりました。(夏休み明けに、生徒から「先生この前、二十四時間テレビの車に乗ってたでしょう。」と、声をかけられました。)その他には昼食時の手伝いや歯磨きの手伝いでした。また、一日目はちょうど大掃除の日でしたので、車椅子を利用してのメンバーの方と窓拭きを担当しました。洗剤を吹きかけ、メンバーの方が下の方を、私が上の方を担当しました。途中、メンバーの方が車椅子から立ち上がり、私に負けまいと上の方を拭いたり、また、一生懸命拭いているうちに、前のめりに車椅子から落ちそうになってしまうというハプニングもありました。

二日間お世話になったわけですが、特に心に残ったことが二つあります。一つは昼食時のことです。もちろんその日のメニューが決まっているのですが、噛む力がないメンバーの方や、飲み込む力が十分でないメンバーの方がいます。その人たちは、別メニューだろうと思いましたが、実際は私も含め、みんなと同じメニューでした。もちろん、そのままでは食べられないので、スタッフの方がミキサーですりつぶし、みんなと同じ器に盛り、食事の介助をしていました。ちょっとしたアイディア、少しの気配りで同じ昼食、同じ時間を楽しめる。そのときの様子が今でも強く印象に残っています。

もう一つは、メンバーの方が帰った後の、スタッフミーティングです。「掃除のとき○○さんにだれもついていたよ」「△△さん、あの時どういう考えで行動していましたか。」「○○さんがどうしていいかわからなくなったのはなぜかな。」などと、スタッフそれぞれその日の様子を振り返ります。私自身、まったく気がつかなかったことがそこでやり取りされていました。とても勉強になりました。ふと、学校と同じだなと思いました。

二日間という短い期間でしたが、実際に自分がどういう役割を果たせるのか、迷うことが多々ありました。また、メンバーの方が何をしたいのか、一生懸命理解しようとしたが、とても難しいものでした。気軽に会話をしているスタッフの人たちがうらやましく思いました。今回の研修をきっかけに、今後さらにボランティア活動への理解に勤めたいと思います。最後に、二日目に皆さんと一緒に食べた「流しそうめん」は特別な思い出になりました。二日間、私をご指導くださいました職員の皆様方メンバーの皆様方に深く感謝申し上げます。

車イスのおじいちゃん

新田小学校六年 村上 夏輝

ぼくのおじいちゃんは、今年の九月に脳腫瘍になりました。

十六時間の手術は成功しましたが、一時的に左半身にマヒが残りました。だから病院内は車イスで

移動しています。

最初に見た時は正直言ってショックでした。おじいちゃんは七十才ですが、運動神経がすごく良かったので、そんなおじいちゃんを見るのはいやだったです。

今はリハビリをしています。ぼくは病院へ行って、車イスをおしあげます。

なので、現在車イスに乗っている人を見ると、あの人はどうしてそうなったのだらうと思います。

今まで、ステップバスなどに乗ると、「どうしてだろう。座れなくて最悪。」ぐらいに思っていました。今はそうは思いません。

電車やバスや乗用車などに、いろいろな工夫があるのには感謝します。もっと車イスの人や身体障害者の人たちが暮らしやすいような世界ができたらと思います。

ぼくのおじいちゃんが入院している病棟には、ぼくと同じ年の子もいます。そういう人が暮らしやすくなるには、まずぼくがそういう人たちの気持ちになって、暮らしに役立てられるようにしたいと思っています。

みんなで仲良く・・・

新田小学校五年 藤原 茉奈

私が四年生の時、総合の時間に「ふれあいタイム」という活動をしました。

うち園、保育園との交流、高齢者の方との交流、アイマスク体験、手話、点字などいろいろなことをしました。

私は小さい子が好きなので、保育園に行きました。もともと小さ

い子の友達がいたので、たくさん遊ぶことができました。

また、高齢者の方ともふれあいました。この活動からいろいろなことが学べました。例えば小さな声で話しても聞こえないので、はっきり大きな声で話しかけようと思がけました。

高齢者の方とふれあってから、前よりおじいちゃんやおばあちゃんに会いに行ったり、電話をしたりすることが多くなりました。

いろいろな人とふれあうたびに私の心はどこか成長する気がします。「ふれあいタイム」は、私の心を育ててくれました。これから、自分からもっと進んでいろいろな人とふれあったり、関わったりしていきたいと思っています。

みんなが仲良くなれば、勉強や遊び、いろいろなことが今までよりもっと楽しくなり、世界のどんな人とも仲良くなれば、けんかも戦争もなくなると思います。

手と心で読む

新田小学校四年 竹津 裕子

このお話は作者の「大島健甫」さんという人の本当のことです。

大島さんは、もう回ふくは望めないと分かってからも、しばらくの間、点字を覚える気にはなりませんでした。点字を覚えるようになったのはお母さんの進めでした。

わたしは点字が目の不自由な人の大切な文字とわかって、目の不自由な人はその点字を使って生活していることがわかりました。わたしは、大島さんたちは一生懸命勉強したと思うし、すごく大変

だと思うけど、やっと一つ何かを読めたときは、すごくうれしかったと思います。

わたしが一番感じたことは、もつと目の不自由な人のためにいろいろなしせつとかを作ったほうが良いということです。

手話との出会い

新田小学校四年 佐藤 杏

私は手話との出会いを読んで、手話が日本語とは別の言語だと思いました。

そして私は、本に買いてあるように、手話を習うときは辞典を使うのもいいと思うけど、できれば耳の聞こえない人たちと直接つかわることがいいと思います。

手話は単に伝えるための手段ではなく、耳の聞こえない人のとても大切な言葉だとしり、私はこの話を読んでよかったなと思いました。

「112もー110番の家」についてお願い

「112もー110番の家」表示板を掲示してくださる方(個人・事業所)をさがしています。これは子どもが身の危険を感じたとき、緊急避難できる場所のことです。

新羽中学校区内で不審者・変質者が出発しています。

連絡先 事務局 新羽中

電話 五四二―一六八〇

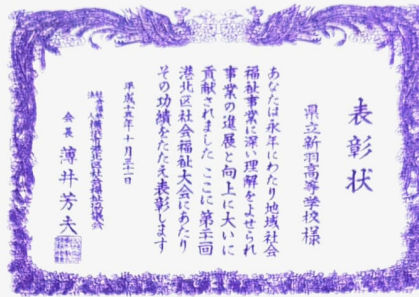
「地域に開かれた学校づくり」

新羽高等学校校長 木原壽美子

昭和52年、県民の要望を受け、地域の皆様の用地提供により、この地に新羽高校が開校してから27年が経過しました。その間、約一万名の卒業生を社会に送り出し地域の教育機関として任を果たしてきました。今、高校は更に地域との連携を強め、地域に開かれた学校づくりを進めることが必要になっていきます。本校も新羽小学校、新羽中学校との交流に力を入れてきました。6月には新羽中学校の3年生全員に高校へ来ていただき、高校の授業を体験して貰いました。8月の新羽フェスティバルには高校の軽音楽部と吹奏楽部が出演させていただきました。高校の学校評議員には、地域から小学校、中学校の校長先生と学校の所在地である大竹町内会長さん、生徒の主な通学路である南町内会長さんの4名になっていただき、地域のご意見を学校経営に反映させて参りました。また、高校の敷地内に古墳がある関係から、編纂中の「新羽史」にも関係記事を載せていただきました。パソコン教室において頂いたり、校庭をご利用頂いたりして、更に交流を深めていきたいと考えております。

先日、大変嬉しいことがおきました。本校が20数年に亘って実施してきた地域清掃活動を、中山会長さん始め社協の皆様が推薦して下さい、港北区社会福祉協議会か

ら表彰状を頂きました。
生徒が通学路を汚すので始まった清掃活動だったようですが、生徒と教員が協力して継続してきました。1学期は1年生、2、3学期は2、3年生が担当します。月に1回水曜日の4校時に行います。学校を中心にして、大竹交差点、亀の甲橋、専念寺バス停、北新横浜駅の範囲で実施しています。本校が力を入れている教育活動が「環境教育」でもありますのでこれから実施したいと考えています。



豊かな鶴見川と美しい新羽丘陵、そして人と人のふれあい深いこの土地で、生徒の心に沁みわたる人間教育を目指しています。生徒たちが成人し、自分の高校時代を振り返った時、この縄文、弥生時代から人びとが生き続けてきた文化豊かな新羽の風景が蘇ってくることを願っています。どうぞこれからもご支援を宜しくお願い申し上げます。

「共生と環境」

新羽高等学校3年 石井 桂子

数ヶ月前、駅のボランティアに友達と参加しました。その中に体験学習というのがあり、車椅子に乗り、アイマスクをしたらして駅周辺を歩きました。段差や傾斜で車椅子は動かず、大変苦労しました。アイマスクをしたら、階段、段差、横断歩道は恐ろしくて歩けませんでした。障害を持つ人にとって、住み難い環境であることを実感しました。

以前、車椅子に乗った人が段差で躓いて倒れた時、私は助けに行けませんでした。誰かが起こすのを手伝うだろうと思ってしまい、起きるのを手伝わなかったのか不思議です。

これからは困っている人がいたら、迷わず手助けに行きたいです。自分ができることから実行して、障害を持つ人にとって住みやすい環境づくりに協力したいと思っています。

たとえば自転車歩道を置かず、決められた場所に置いたりすること、できることのひとつです。自分のできることから始めていこうと思いました。



弥生時代土器（新羽高校提供）



2002年度 第46回横浜スカーフデザインコンテスト
ブチスカーフの部（高校生対象）
特別奨励賞 2年2組 松尾雄太

新羽小ふれあい

給食会に参加して

体育指導委員 川向 隆次

十一月十日（月）PTA、主任児童委員、民生・児童委員、町内会長の皆様十四名で参加しました。三年生三クラス、四年生二クラスに別れ、それぞれ代表の方に教室まで案内していただき、皆さんと同じメニューで、学校内での事、家庭内での事、色々とお話しながら楽しくおいしく頂きました。メニューは意外と質素な感じですが、おかわりする人も見受けられました。食事後、簡単なゲームで遊びましたが、大勢の仲間と一緒に食事をするという雰囲気の良いものでしょうか、元気を通って超えて騒々しく、先生の声が全く聞こえない部分もありました。
然し全員が健康で楽しく、学校生活を送っている事を充分感じる事が出来ました。
短い時間でしたが楽しく過ごす事が出来、本当に有り難うございました。

ふれあい給食

主任児童委員 飯島由美子

六月二十日、新羽小学校で民生児童委員を含めた地域のひと、三・四年生の子供たちと一緒にふれあい給食に参加しました。
手作りの名札を胸につけ、案内されたクラスで机を囲み、給食を食べながらおしゃべりをしたり、ゲームや歌と楽しいひとときを過ごす事ができました。



中山 宏会長も参加して

エリザベスサンダース

ホーム訪問記

平成十五年度新羽地区社会福祉協議会の事業として実施された施設訪問・見学会に参加する機会を得た。

港北区長の持田様はじめ四十六名の皆様と、去る十月二十三日にご一緒させていただきました。

別荘の点在する湘南大磯駅前にその訪問先があった。エリザベスサンダースホームの名称は、英国聖公会信徒の女史が百七十ドルを遺贈したのに感激して澤田美喜さんが名付けたそうである。



昭和23年5月23日 最初の子供たちと澤田美喜園長

戦後の昭和二十二年、混血乳幼孤児の救済に立ちあがった澤田美喜さんは、ご存じの通り名門の岩崎家の出である。今回訪問して解った事は、財閥がバックにあってのお嬢さん仕事では無かったことである。女史は大変バイタリティーに富んだ、子どもたちのためならどんな困難にも立ち向かう強固な心の持ち主だった様である。
昭和二十九年には、世界的な黒人歌手ジョセフィン・ベーカーが訪日して募金活動を展開したり、著名な小説家であるパール・バック女史がアメリカでの自立援助のため四名の混血孤児を引き取ったり等して話題になった事を記憶されている先輩方も多からう。
現在は世情も大きく様変わりし、社会福祉法人・児童養護施設として定員百名規模の事業を展開している。
「澤田イズムは今も健在なり」と心に感じ帰路についた。
(編集人記)

